

世界遺産登録に向けて

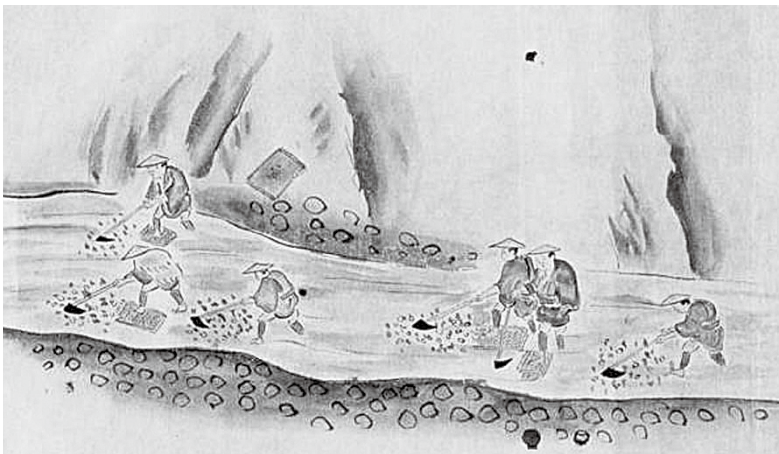
西三川砂金山(14) — 「押穿」とは —

「西三川砂金山稼方図」によれば、毎月25日か26日に行われる「大流し」の後、「押穿」という作業が行われていました。

まず「水戸通り」の流れを緩やかにして、「二丁場」と呼ばれる稼ぎ場の上流と下流に、人足を3人ずつ配置します。人足には「ねこた」という筴が1枚ずつ渡され、それを足元でしっかり踏み固めます。そこへ釣「子で砂を流し掛け、「ねこた」に砂が溜まると、足で「ねこた」を打ち返し、砂金を含んだ砂を集めます。上流の3人は、砂金を含んだ砂を1枚の「ねこた」に集め、それを「汰板」に移して砂金をゆすり取り、板先に集まる「地黒」（砂鉄のこと）は捨てます。

一方、下流の3人は、上流から流れてきた砂を打ち返し、同様に1枚の「ねこた」に集めて、砂金をゆすり取ります。このように、「ねこた」を押さえて砂金を穿り取るので、「押穿」と呼ばれました。

こうして集めた砂金は、金山役が検査をして、金児にも改めさせ、封印をしてから保管します。



「押穿」の様子：「西三川砂金山稼方図」より
(新潟県立歴史博物館蔵)

押穿が終わった後、水を止めると川底の石が出てくるので、これを取り除き、何度も押穿を繰り返しました。

◆市役所世界遺産推進課（金井就業改善センター内） ☎63-5136

姉妹都市交流コーナー

第37回 入間万燈まつり

今年の入間万燈まつりは、2日間とも晴天に恵まれたこともあり、会場は多くの来場客で賑わいました。佐渡からは、芸能や物産関係者など総勢約140人が参加しました。

佐渡物産展では、おけさ柿や海産物、沖汁、サザエ飯などが大好評で、多くが完売したほか、今年初めて実施した佐渡の地酒試飲コーナーには、多くの入間市民の方が訪れ、佐渡の味を堪能しました。

芸能公演では、七浦民謡研究会と首都圏佐渡連合会の民謡や潟上誠心会の鬼太鼓が披露され、多くの入間市民が佐渡芸能に興味深く見入っていました。



佐渡の地酒試飲コーナー

第32回 国分寺まつり

11月1日に行われた第32回国分寺まつりは、昨年を約3千人上回る延べ4万5千人の来場客が訪れ、たいへんな賑わいを見せていました。

芸能披露では、沢根白桜会の鬼太鼓と首都圏佐渡連合会の民謡が披露されたほか、佐渡物産展では、活サザエ、焼きイカなどの海産物や沖汁、地酒、果物など、幅広い佐渡産品に長蛇の列ができていました。

また、ふれあい水槽コーナーでは、多くの来場客が訪れ、子どもたちがさまざまな海の生き物に触れて大はしゃぎでした。



沢根白桜会の鬼太鼓披露

◆市役所地域振興課離島交流係 ☎63-4152